

作者プロフィール

柚木 文夫氏

千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

安達太良山へスキー登山



安達太良連峰

去る2月初め、福島県・安達太良山(1700m)へスキー登山に出かけた。安達太良山は、高村光太郎の「智恵子抄」に魅せられて訪れる登山客も多い。峰々を連ねる山岳景観も良いが、周りを取り巻く温泉群もまた捨て難い魅力がある。

福島在住のA君に車の便宜をお願いして、前夜は岳温泉泊りとなった。差し入れしていただいたA夫人丹精の漬物の数々に、すっかり酒も進んだ。東北の漬物は「正に日本の宝」というのが、酒飲みの言い分。

翌朝、安達太良高原スキー場に車を置いてスキー場のゴンドラに乗って一気に標高

1550m付近からはようやく植生も消えて白一色の雪の斜面となった。ゴンドラ山頂駅から約1時間半で安達太良山頂の岩稜基部に到着し、ここでスキーをデポして山頂に向かう。山頂到達11時20分。猛烈な風雪で目も開けられず、視程もほとんどない。寒さのためか、頭が締めつけられるように痛い。早々に山頂を退散した。

さてスキーを着けて滑り始めたが全くのホワイトアウト状態で、白一色の大斜面を、姿勢を低くして懸命に雪面に目を凝らしながらの滑降となる。何となく船酔い状態となり、頭がグルグルする。やっと植生帯に到着して、我々の登りのシュプールを発見した時は、さすがにホッとした。



山頂



スキー場からの安達太良山

1300mまで上がり、そこからシールを着けて五葉松平を登り始める。五葉松がまだ50%ほど頭を出しており、その植生を縫いながらの登行である。

あと数日雪が降り積もって植生がスッポリ隠れれば、この斜面を自由自在に滑れるはずだと思うと残念である。

天候は小雪程度で視程も今のところ十分あるが、



山頂間近

広い稜線での天候悪化時の帰路のことも考え、要点要点で磁石方位を記録し、赤テープを結びながら進む。

しかし、スキーの下手な小生以下、その後の五葉松の植生を縫いながらの滑降に四苦八苦し、ようやくのゴンドラ山頂駅到着は12時半だった。

ここで衆議一決、午後予定のゲレンデでのスキー練習は取り止めにして、スキー場を一直線に滑り降り早々に宿に帰り着いて、酒と温泉三昧の極楽世界が再開された。



山頂直下の大雪原